



学生がつくった学内バリアフリーマップ 「キャンパスマップ」

守弘 仁志 大野 哲夫

2006年秋、差別と人権に関する委員会の主催で行われた「しょうがい学生との懇談会」の中で、学生の中から「車いすで利用できるトイレの場所がわかりにくい」「入学時に学内のバリアフリー施設を紹介したマップを配ってほしい」などの声が上がりました。以前にも職員の方によって学内のバリアフリーマップが作られていたのですが、その存在を多くの方が知らない状況にありました。そこで、しょうがいをもつ学生と周りの学生が呼びかけ人となって、新しいバリアフリーマップ作成への動きがうまれました。

2006年12月末からしょうがいをもつ学生だけでなく、マップ作りやバリアフリーに関心のある学生、大学の先生や職員の協力を得ながら、新年度に全学生に地図を渡すことができるように活動を進めていきました。学生が4つのグループに分かれ、デジカメやメジャーなどを片手に今ある大学施設のバリアフリーがどのようになっているかを調査して回りました。これらの調査結果をもとに、みんなどのようなマップを作りたいか真剣に話し合いを重ねました。その結果、この「CAMPUS MAP」を完成させることができました。完成したマップをみんなとともに手にした時は、喜びでいっぱいでした。

熊本学園大学は他の大学よりもバリアフリーへの取り組みが進んだ大学だと思っています。それは、今に至るまで多くのしょうがいをもつ学生やその仲間、教員や職員の方々がともに取組まれた成果だと思っています。私たちはこの「CAMPUS MAP」によって、今までの取り組みの成果を多くの人々に知ってもらいたい、そしてたくさんの人にもっと利用して

欲しいという願いを込めました。しかし、快適な学び舎の環境づくりを進めるためには、改善すべき課題がまだまだ残されていることが、今回私たちが行った調査でも見えてきました。今、私たちは、調査で見えてきた課題をまとめることと、視覚しょうがいの方にもわかるような地図（触図）の作成をはじめています。今後も継続して大学の学生や教員、職員の方々、そして地域の人々と協力しながら、みんなにとって暮らしやすい学内環境づくりに取組んでいきたいと思っています。私たちの活動にひとりでも多くの学生や職員のみなさんの声を寄せていただければと思います。

最後に、今回のマップづくりに協力していただいた皆さんに対して、この場を借りてお礼を申し上げます。

学内バリアフリーマップ作り学生の会



熊本学園大学では、以前にも学内のバリアフリーマップがつくられていたものの、十分に活用されていなかったことから、学生が中心となった新しいマップづくりが行われました。その経緯と活動を「学内バリアフリーマップづくり学生の会」メンバーに集まっていただき、インタビューしました。

——この会のそもそもの発端とその後の活動を教えてください。

「発端は2006年の11月の「しょうがい学生との懇談会」でした。この会は一年に一回の開催で、参加できないと機会が翌年になってしまうので、何かしょうがい学生の意見をまとめる集まりができないか考えていたところでした。また、この年の新入生が入学して半年以上にもなるのに『まだ学内の設備を把握していない』と話したので『学生が集まってマップを作った方が早い』ということになり、しょうがいに関する講演会などに集まった学生に声をかけ、集まった14名を中心に、翌年度4月完成・配布を目指して12月26日にスタートしました。学内バリアフリーマップはすでに大学側が作成したものがあつたのですが活用されていませんでした。そこで、これをもとに当事者学生の声を入れればパワーアップして使い易いものになるはずだと思いました。そして隔週に集まり、編集方針からグループ分け、各調査へと進みました。」

——マップづくりの中で感じたことはありますか。

「マップづくりの取り組みは皆の活気があって楽しいものでした。またその中でしょうがい者学生の学習環境について考えることができました。特に、調査する中で視覚しょうがい者の観点に立ち、点字の表示、ブロックなどにも注意をするようになりました。さらに調査をするにあたって学生のみでなく教員や職員の方々の協力、アドバイスを受け、共に作り上げたと思います。最初は両面印刷一枚のマップぐらいになるだろうと思っていましたが、最終的にはこのような立派なものになりました。」

——今後の取り組みについてはいかがですか。「現在、マップの点字化作業を行っています。最初の方はできた部分があります。完成したら学内の各部署や受付においてもらって活用



してもらったと思います。この部分はまだ活動中です。また、マップ自体の再編集もあります。マップでは2007年完成の14号館は設計図から起こしたもので実地調査をしていません。また、正門などから各号館まで行くルートなどもマップ上に盛り込むとさらによくなると思います。このような改良のための再編集を行いたいです。また、最近東京の方の大学がこのマップに関心を寄せ、自分の大学でもやってみたいという連絡が来ています。

*新しく学内バリアフリーマップが出来あがるまでの苦労と喜びについて、集まっていた皆さんそれぞれが生き活きと話してくれました。それは本学の学習環境の見直しにつながり、それまで把握できていなかった問題点や課題の発掘にもなり、勉学を志すすべての人々にとっての、快適で安全な学習環境のあり方を模索する活動にまで発展しています。「問題点の指摘だけでなく、良い点を残し改善へのきっかけとしたい」などの建設的な意見は、今後、学生、教職員を巻き込んだ活動で着実に解決へ向けて取り組まれていくことと思います。尚、インタビューは会の発起人代表の宮部修一さんと三島春奈さん、メンバーの甲斐麻美さんと志水由佳さんにお話をお聞きしました。

インタビュアー（本研究所研究員・守弘仁志）
（本研究所研究員・大野哲夫）